

令和3年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・社会人特別選抜）

入学試験問題（小論文）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は 6 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ 以下の文章を読み、問いに応えなさい。

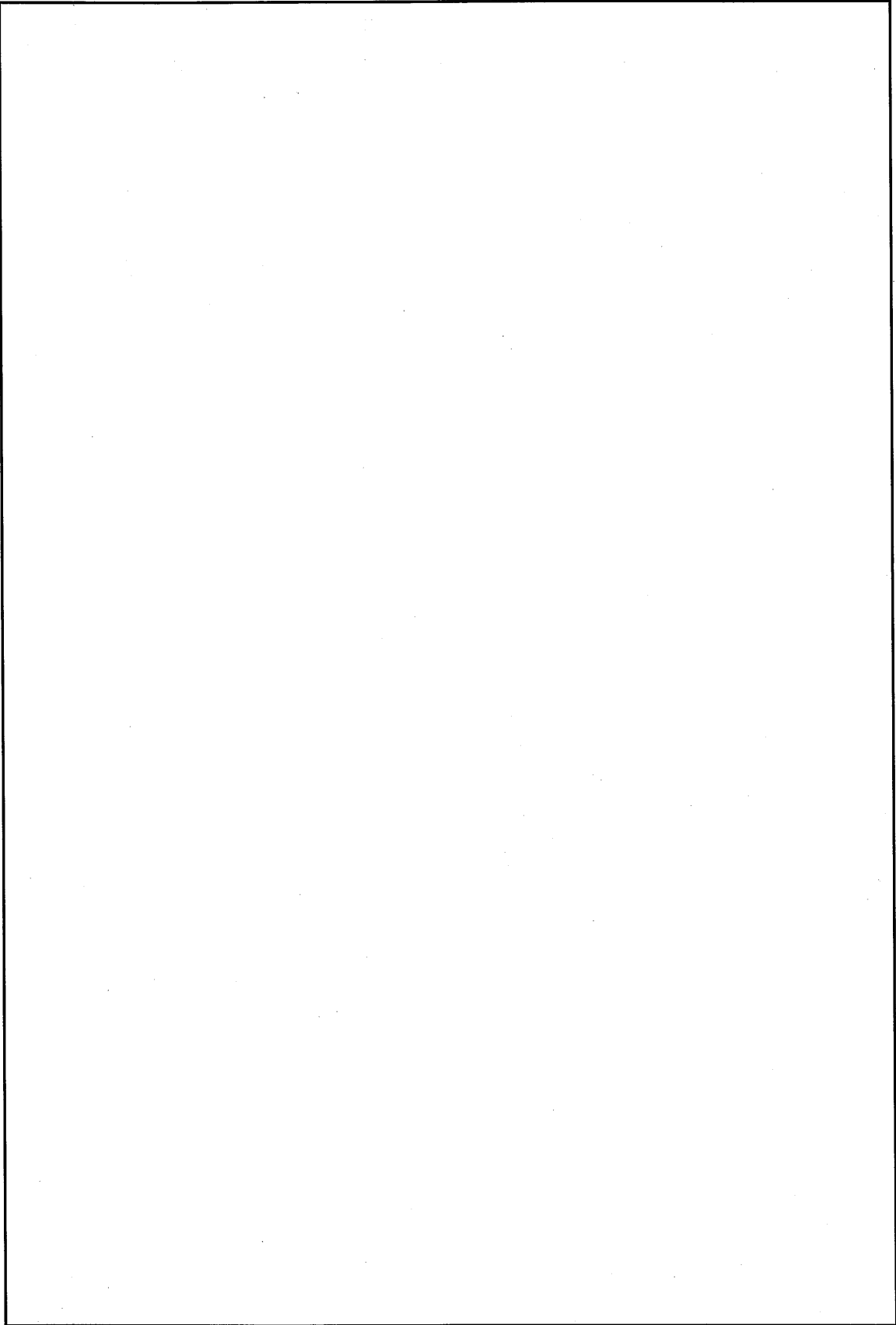
- (1) 「知識を増していくやり方」が効果的に行われるためには何が必要か。その理由も含めて200字以内で説明せよ。
- (2) 「自分の得意とする分野を使って類推を行うこと」の例を考え、100字程度で述べよ。
- (3) 本文の内容を踏まえ、社会人が大学や大学院で学ぶことの意義について、400字以内で論じよ。

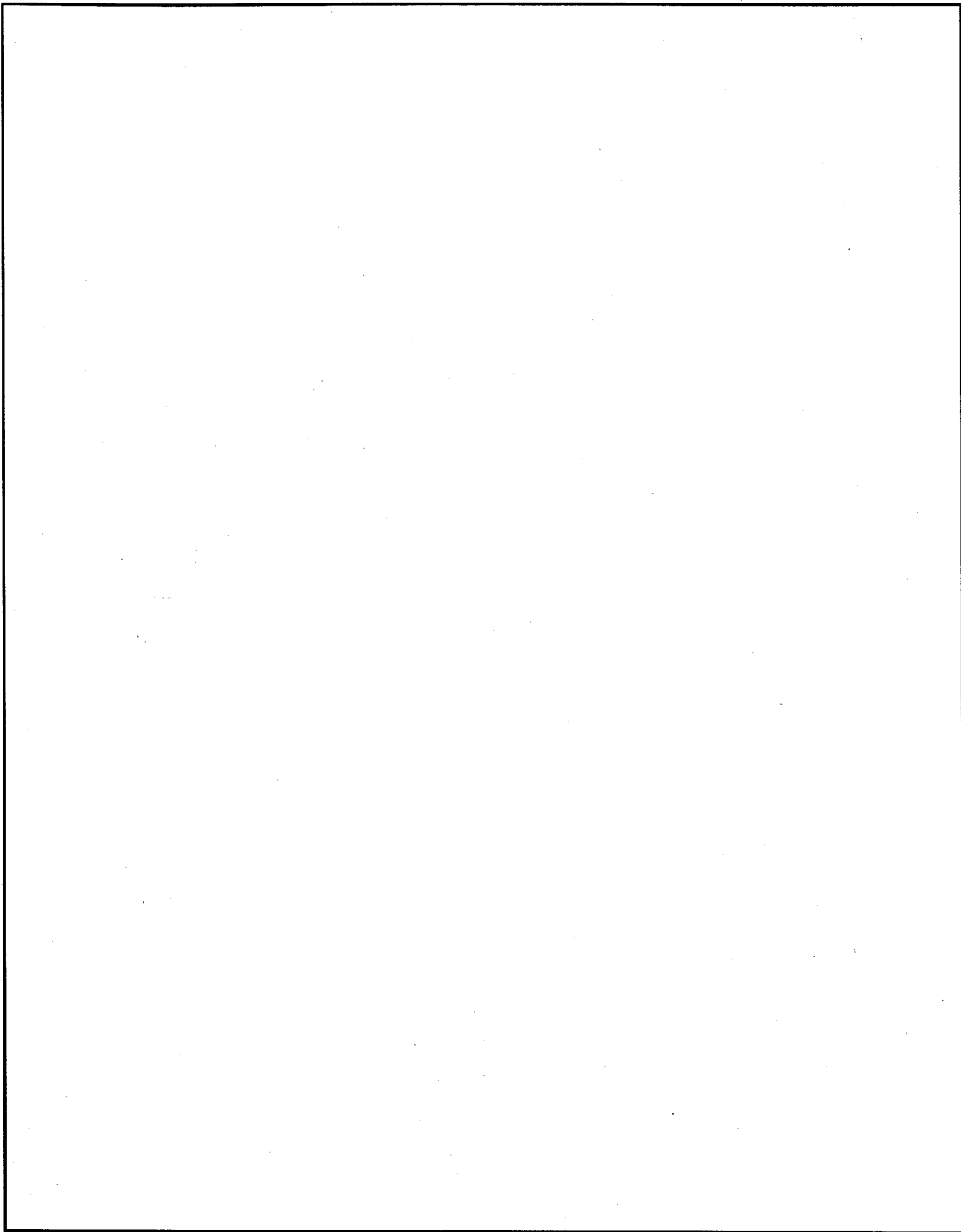
ここに下記文献の抜粋が入ります(一部改変)。

稲垣佳世子・波多野誼余夫(1989)『人はいかに学ぶか』中央公論新社
(68頁13行目から14行目、137頁1行目から139頁13行目、146頁12行目から
149頁11行目まで。)

また、次の部分に「」内の引用者注が入ります。

138頁4行目「…認知的制約」の後に「(学びての頭の中にある、可能な解釈
や仮設の範囲を限定する規則——引用者注)」





(注) 稲垣・波多野…筆者である稲垣佳世子と波多野誼余夫を指す。

(出典) 稲垣佳世子・波多野誼余夫 (1989) 『人はいかに学ぶか』(中公新書 907) 中央公論新社、68 頁、137-139 頁、146-149 頁より作成。

設問Ⅱ

以下の資料は、国際教育到達度評価学会(IEA)が2019年に行った国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2019)の結果の一部を表したものである。

- (1) 日本の算数・数学、理科に関する学力や意識について資料から読み取れることについて述べなさい。
- (2) (1)で読み取ったことから、学校(小中学校)において今後どのような取り組みが必要であると考えるか。あなたの考えを述べなさい。

【資料】

調査概要

- ・TIMSSは、国際教育到達度評価学会(IEA)が、児童生徒の算数・数学、理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童生徒の教育上の諸要因との関係を明らかにするため、1995年から4年ごとに実施されている。
- ・2019年調査には、小学校は58か国・地域、中学校は39か国・地域が参加し、日本では、IEAの設定した基準に従い、小学校4年生約4200人(147校)、中学校2年生約4400人(142校)が参加した。平成31(2019)年2月から3月に実施された。

平均得点の推移

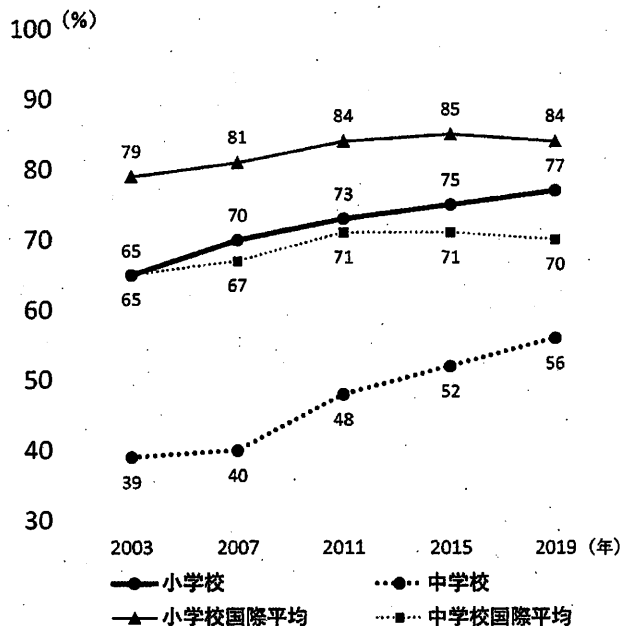
		1995	1999	2003	2007	2011	2015	2019
算数	小学4年	567	調査実施せず	565	568	585	593	593
		3位/26か国		3位/25か国	4位/36か国	5位/50か国	5位/49か国	5位/58か国
数学	中学2年	581	579	570	570	570	586	594
		3位/41か国	5位/45か国	5位/45か国	5位/48か国	5位/42か国	5位/39か国	4位/39か国

		1995	1999	2003	2007	2011	2015	2019
理科	小学4年	553	調査実施せず	543	548	559	569	562
		2位/26か国		3位/25か国	4位/36か国	4位/50か国	3位/47か国	4位/58か国
	中学2年	554	550	552	554	558	571	570
		3位/41か国	4位/38か国	6位/45か国	3位/48か国	4位/42か国	2位/39か国	3位/39か国

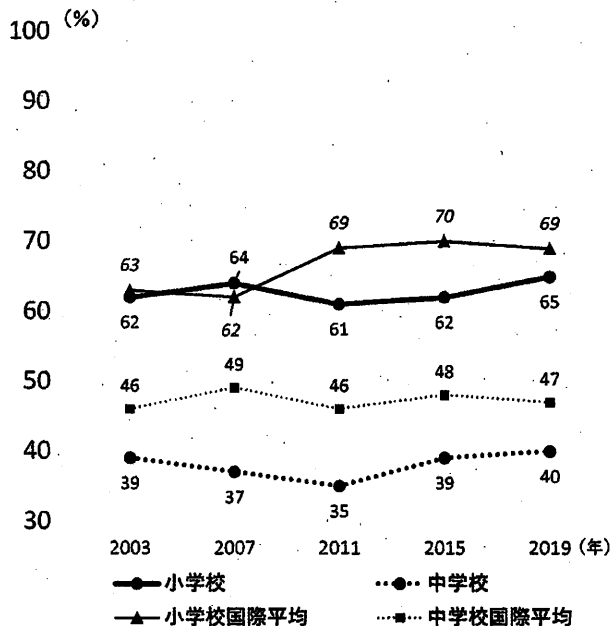
※教科の平均得点は標準化されており、経年での比較が可能である。
 ※小学校は1999年調査を実施していない。

質問紙調査の結果 (算数・数学)

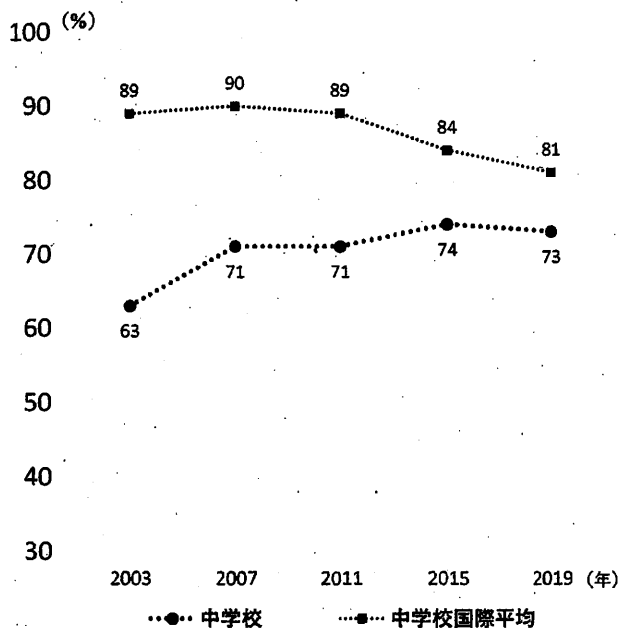
算数・数学の勉強は楽しい



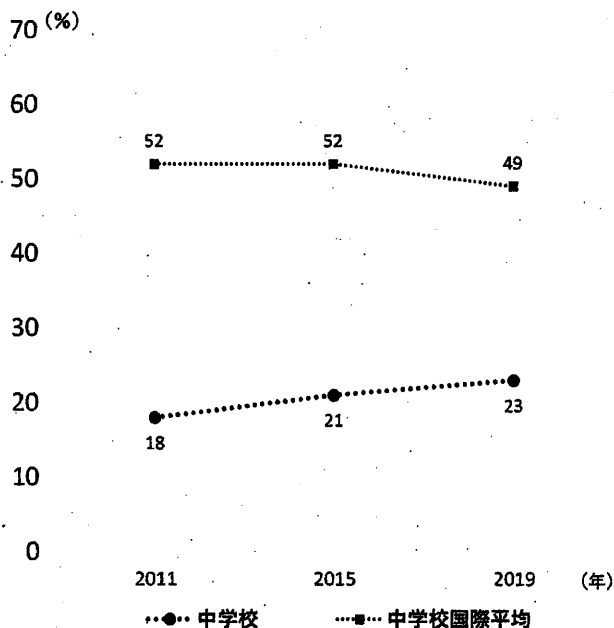
算数・数学は得意だ



数学を勉強すると、日常生活に役立つ



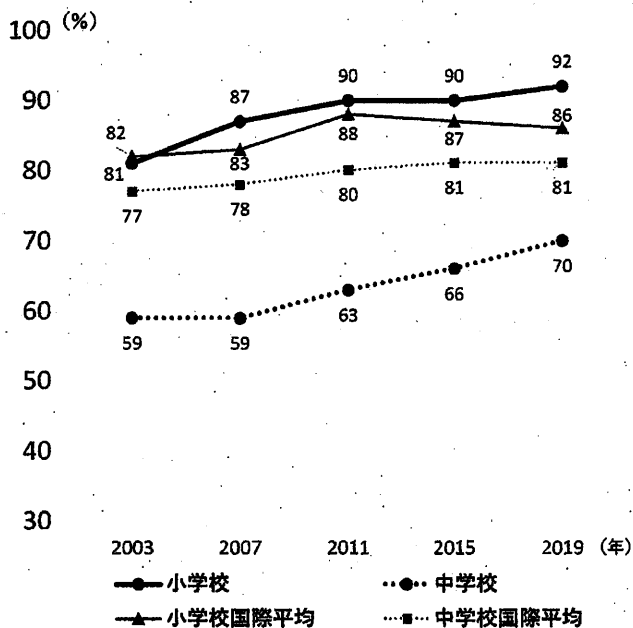
数学を使うことが含まれる職業につきたい



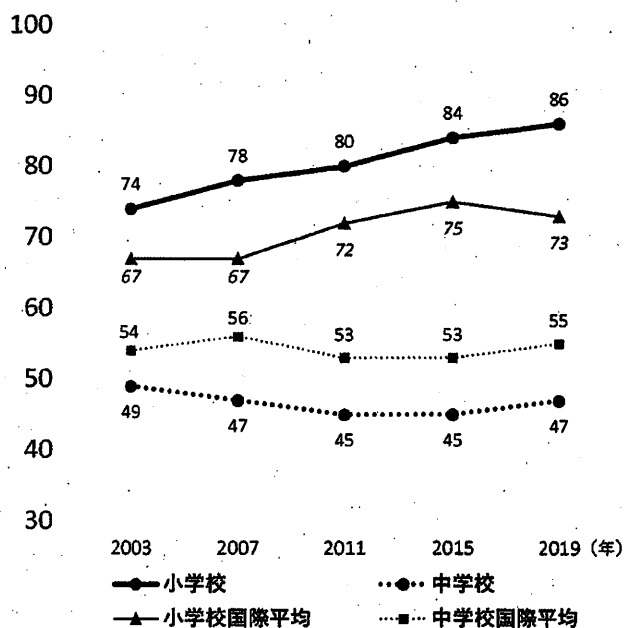
※数値は「強くそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の小数点第1位までの割合を合計し、さらにその小数点第1位を四捨五入したものである。ただし、「算数・数学は得意だ」については、実際の質問項目は「わたしは算数が苦手だ/数学は私の得意な教科ではない」であり、この質問に対して「まったくそう思わない」「そう思わない」と答えた児童生徒の割合をグラフにしている。

質問紙調査の結果（理科）

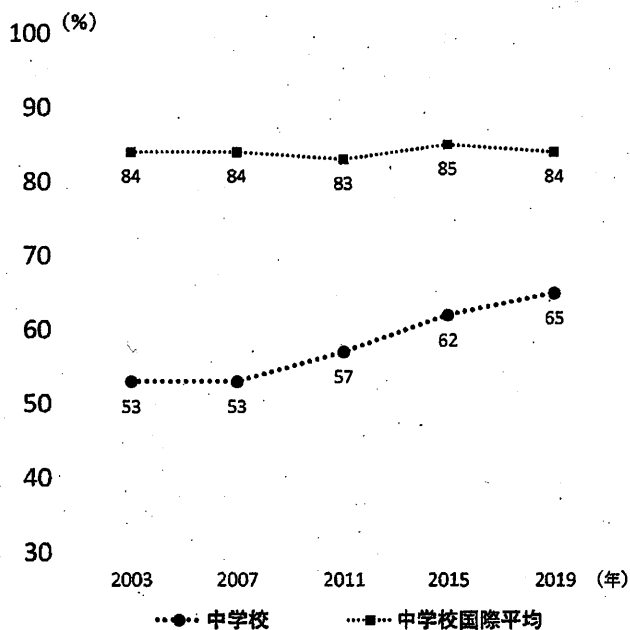
理科の勉強は楽しい



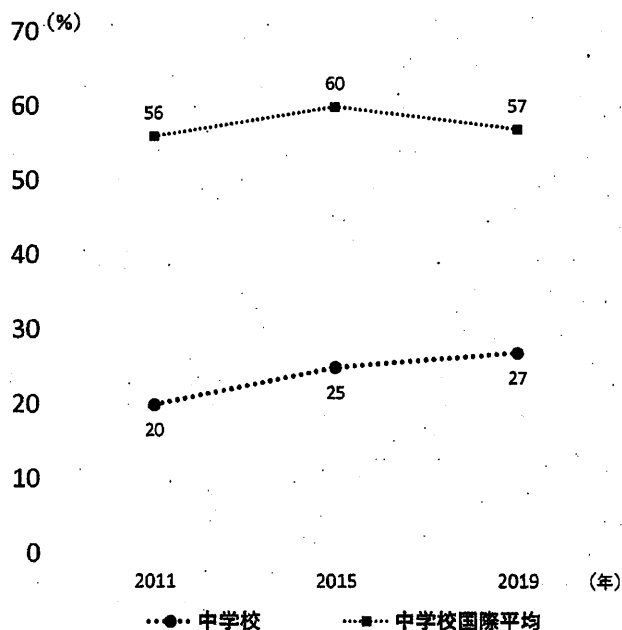
理科は得意だ



理科を勉強すると、日常生活に役立つ



理科を使うことが含まれる職業につきたい



※数値は「強くそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の小数点第1位までの割合を合計し、さらにその小数点第1位を四捨五入したものである。ただし、「理科は得意だ」については、実際の質問項目は「わたしは理科が苦手だ／理科は私の得意な教科ではない」であり、この質問に対して「まったくそう思わない」「そう思わない」と答えた児童生徒の割合をグラフにしている。

出典：国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2019）のポイント

https://www.mext.go.jp/content/20201208-mxt_chousa02-100002206-1.pdf

令和3年度 (第2期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 (専門科目)

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚(表紙を除く)、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと(設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること)。

…………臨床心理学コース…………

【設問Ⅰ】 COVID-19の感染拡大や制限された生活が長期化することによる、心身への影響について述べなさい。(20点)

【設問Ⅱ】 不登校や不登校傾向にある児童・生徒への心理支援において留意すべきことを3点にまとめて述べなさい。(20点)

【設問Ⅲ】 カウンセリングにおいては、支援対象者に課題(ホームワーク)を課すことがあるが、支援対象者がそれに取り組んでこないことがある。想定される原因を一つ挙げ、それに対して考えられる対応策について述べなさい。(20点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。(各5点)

(1) いじめ防止対策推進法

(2) 国際生活機能分類 (ICF)

(3) コーホート研究

(4) 確証バイアス

(5) 円環的質問法

(6) 変換症 (転換性障害)

(7) フロア効果

(8) HDS-R

(以下余白)